

# 令和8年度 東京都立練馬高等学校 学校経営計画

東京都立練馬高等学校

校長 高 幹 明

## 【目指す学校】

### 1 スクール・ミッション

「人間の尊厳を重んじ真理と平和を求めて協働する、心身ともに健康な自主自律の青年を育成する」を教育目標に、「立志・自律・飛躍」を校訓とし、互いに学びあい、共に解決する協働の精神を培い、感謝・礼儀・思いやりを持つ人間性豊かな生徒を育成します。

### 2 スクール・ポリシー

#### (1) グラデュエーション・ポリシー

##### ア 学習

- ①主体的に物事に取り組む力
- ②コミュニケーション能力
- ③自学自習の習慣
- ④授業や外部教材を活用した基礎学力の向上

##### イ 生活

- ①規範意識
- ②感謝・礼節・思いやりの精神
- ③社会に貢献する力
- ④他者や社会と関わる人間形成力
- ⑤時間を守る習慣
- ⑥部活動、学校行事を通じた集団としての共生力

##### ウ 進路

- ①将来の進路を見つけるためのキャリア・デザインの力
- ②外部講師の授業を通じた人間形成力
- ③外部検定等を通じた自己肯定感の育成と向上心
- ④自主的な行動力

#### (2) カリキュラム・ポリシー

##### ア 個に応じたキャリア教育の実践

##### イ 生徒の希望進路の実現

##### ウ 教職員による授業の創意工夫

##### エ 規範意識の向上

##### オ 部活動・特別活動を通し心身を鍛える

##### カ 社会に貢献するための資質・能力の育成

##### キ 生徒・保護者・地域から認められる学校

##### ク 体罰やいじめのない学校

##### ケ 教職員が一致団結し組織的に動く学校

#### (3) アドミッション・ポリシー

練馬高校は「文武両道の中堅校」として、「立志」「自律」「飛躍」を校訓に掲げ、大学進学等生徒の進路希望を実現し、「分かる授業」を実施し生徒の確かな学力を向上させ、学校行事や部活動の振興を通して生徒の心身を鍛え、地域の伝統校として信頼される学校づくりを目指しています。

## 練馬高校の期待する生徒像⇒キーワード【誇れる練高】

「すべての生徒が有意義に学校生活を送れるように、誇れる練馬高校にしよう！」

- 学習活動に興味・関心をもち、大学進学等進路実現に向けて前向きに取り組む生徒
- 集団生活におけるマナーやルールを守り、友人や教職員とのよい人間関係を築ける生徒
- 部活動、委員会活動、学校行事等において、自主性をもって熱心に活動することができる生徒

## 【中期的目標と方策】⇒地道に頑張っている生徒を伸ばし【誇れる練高】を推進

【目標】基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上

《方策》継続した遅刻指導による時間厳守の徹底

《方策》頭髪指導、化粧指導等、身だしなみ指導の維持・徹底

《方策》セーフティ教室等の機会を捉えた安全指導、情報モラル教育

【目標】系統的なキャリア教育の推進と自主性・自律性の育成

《方策》3年間を見据えた進路計画「夢・人プラン」の確実な実施

《方策》学校行事、部活動の活性化

《方策》自習スペースの活用、予習・復習の奨励等による授業外学習時間の増加

【目標】組織的な学校運営

《方策》公開講座やウェブサイトによる情報発信等による開かれた学校づくりの推進

《方策》企画調整会議の充実、学校経営計画に沿った組織的な取組の推進

《方策》業務の効率化・縮減によるライフ・ワーク・バランスの確立

## 【今年度の取組目標と方策】

### 1 学習指導

- (1) 習熟度別・少人数授業の効果的な取組
- (2) 課題や予習・復習の奨励により生徒の学習習慣の確立を目指す。
- (3) 生徒の活動場面を増やし、相互に学びあうことでより深い学びを実現する。
- (4) 主体的にメモを取る等、自律した自己管理ができるよう生徒の育成を図る。
- (5) 長期休業期間中の講習や学期中の補習の充実により、生徒の学びを支援する。
- (6) ICT機器を活用し、「わかる授業」を実現する。
- (7) 教科内及び教科を越えた教員相互の授業観察や研究授業の実施を通して、授業力の向上を図る。
- (8) 教科会を充実させ、観点別評価等に関する精度向上のための研修の充実を図る。また、教科指導上、課題ある生徒への丁寧な指導を心がける。（課題、提出物等も活用）
- (9) 一人1台端末や学習クラウドサービス等を活用して、生徒が自ら積極的に学びに向かうための学習環境を整える。
- (10) 国際教育やグローバル人材の育成を目指し、英語教育の充実を図る。
  - ア 生徒海外派遣研修1週間「Global Visit」（2年連続で完全実施する。）
  - イ 生徒海外派遣研修3週間「Global Challenge」（完全実施する。）
  - ウ 外部検定試験実施校（英検各級合格者の増加 or GTECスコアを把握する。）
  - エ 海外学校間交流推進校（グローバル人材育成に向けた機会となる企画を実施する。）
  - オ 英検合格者数 2級（5名）、準2級（10名）、準2級プラス（10名）3級（20名）

## 2 進路指導（重点目標）

数値目標	大学・短大進学率	50%
	生徒の進路決定率	90%
	生徒の進路指導に関する肯定的評価	80%
	検定試験(リテラス)の合格者数	準2級 130名 3級 150名 準3級 20名

- (1) 「夢・人プラン」に基づき、生徒の希望進路実現に向けて、進路指導部が主導し、学年・教科等と連携した計画的な進路指導に取り組む。
- (2) 学習指導の中にキャリア教育の視点を意識した内容を盛り込み、自分の進路を考えるように促す取り組みを全教科で継続的に行うとともに、より高みを目指す働きかけを全教員で行う。
- (3) 検定試験(リテラス等)の受検や面接・小論文指導等の計画的な実施により、生徒一人一人の進路に対する自覚を促す。
- (4) 全学年を通じて個別面談および三者面談を計画的に実施し、多様な進路希望に柔軟に対応するとともに、生徒一人一人に応じた進路選択をコーディネートすることで、進路実現を支援する。
- (5) 民間の模試等の活用、模試分析会を実施し、大学進学へ向けた指導を充実させる。

## 3 生活指導（重点目標）

数値目標 生徒の特別指導件数 10件以下

- (1) 朝の立ち番や日常の声かけ等を継続して行うことにより、時間厳守の徹底を図る。
- (2) 生活指導部と連携しながら、統一した身だしなみ指導の実現に全教員で取り組む。
- (3) 日常の清掃活動とごみ分別の徹底により、美化意識の向上を図る。
- (4) 教員と生徒及び生徒相互の人間的な触れ合いを大切にして、人権を尊重する精神を培う。
- (5) 日常の言動やSNSへの書き込み等を人権の視点から指導するとともに、セーフティ教室等の機会を捉えた継続的な指導により、いじめのない学校を実現する。
- (6) 登下校時における交通ルール、特に自転車の安全運転に関する指導を推進するとともに、ヘルメット着用の徹底や道路交通法の一部を改正する法律の周知を図り、事故の未然防止および通学マナーの向上を推進する。

## 4 特別活動・部活動（重点目標）

数値目標 部活動加入率 75%  
ボランティア活動参加延べ人数 100人

- (1) 学習と部活動を両立することで、学校生活全般の充実を図る。また、各種大会への積極的な参加や、部活動主体での学習会の実施など、更なる活性化を推進する。
- (2) 体育祭、文化祭等の行事を生徒が自ら運営することを通して主体性を育み、達成感や自己有用感を味わう機会とする。
- (3) 教科「人間と社会」を通して地域行事等に参加し、地域に貢献する。
- (4) オリンピック・パラリンピックのレガシー教育を行い、国際社会を意識させる。
- (5) 体育行事や運動部の活動等の機会を捉えて、基礎体力の向上を図る。
- (6) 海外派遣研修に参加させ、異文化理解等の世界的な視野を獲得させる。

## 5 心身の健康づくりの推進

- (1) 教職員とスクールカウンセラーの連携、家庭との緊密な連携により、生徒の心身の状況を適切に把握するとともに、心身の健康にかかる情報を学校全体で共有し、組織的な体制を充実させる。
- (2) 生徒と対話する機会を増やし、生徒の変化をいち早く捉えることにより、いじめや自殺の未然防止を図る。
- (3) 特別支援教育コーディネーターを中心に、教職員とスクールカウンセラーが連携し、特別な支援を必要とする生徒の情報を共有し、家庭と連携しながら、特別支援教育の推進を図る。
- (4) 社会の変化を見据え、教職員を中心に LGBT 等への理解を深める。
- (5) 「都立学校版コンディションレポート」を導入し、生徒のメンタルヘルスに関する必要な支援の充実を図る。
- (6) 「生徒の健康に関する理解促進事業」を活用し、生涯を通して生徒自らが、自らの健康や環境を管理し、改善していくための資質・能力を育成する。

## 6 募集・広報活動

数値目標 学校 HP 更新回数 330 回

- (1) 学校ホームページや SNS を活用し、学校生活の様子を積極的に発信することで学校 PR を充実させ、入学者選抜における倍率の向上につなげる。
- (2) 学校説明会・学校見学会等で生徒の活躍する機会を増やし、本校の魅力を中学生等に効果的に発信することで、広報活動の充実を図り、入選倍率の向上を図る。

## 7 学校経営等

- (1) 企画調整会議において分掌・学年等の連携・調整・協力体制を強化し、ボトムアップによる学校の改革を進める。
- (2) 研修の定期的な実施やクリーンデスクの励行により、体罰・個人情報管理・会計等に係る事故ゼロの徹底を図る。
- (3) 経営企画室と教員との協働を通して相互理解を図り、円滑な業務遂行を進める。
- (4) 学校評価等の活用により、教職員の資質向上を図るとともに、組織の活性化を図る。
- (5) 施設・設備の状況等を調査し、安全な教育環境の実現に向けて必要な対策を講じる。
- (6) 校務支援システムの活用、定期考査の採点・分析システムの活用を進め、新しい時代に適合した業務のあり方や評価のあり方を全教員で共有する。
- (7) 校務のデジタル化や ICT 活用・オンライン学習に関する校内研修等を充実する。
- (8) 統合型校務支援システム (C4t h) を活用し、学校情報の一元管理に向けた校内体制を目指し業務の効率化を図る。
- (9) 学校経営支援事業、人材育成事業等を活用し学校の魅力発信、人材育成を図る。

## 8 ライフ・ワーク・バランスの実現(重点目標)

数値目標 1 か月の定時外在校時間 45 時間を超える教員数 10 人以下

- (1) 再編した分掌の業務体制を検証し、業務の効率化、業務量の縮減を図る。
- (2) メールの積極的な活用による情報共有や会議時間の短縮など、校務の効率化を図る。
- (3) 在校時間の情報提供等により時間を意識した業務遂行を促す。